

岡病防第3号  
平成27年4月30日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平成27年度病虫害発生予報第2号

平成27年4月30日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量	
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	並	モモ	ナシヒメシクイ カメムシ類	<b>早 やや早</b>	やや少 <b>やや多</b>	
	ヒメトビウンカ	—	少		ブドウ	灰色かび病 べと病	やや遅 やや遅	やや少 やや少
	縞葉枯病	—	並	キュウリ等		灰色かび病	—	並
	ツマグロヨコバイ	—	少			イチゴ	うどんこ病	—
	萎縮病	—	並	タマネギ	べと病	—	<b>やや多</b>	
イネミズゾウムシ	<b>やや早</b>	並	ナス等	ミナミキイロアザ ミウマ	—	並		
麦類	アブラムシ類 ヤノハモグリバエ	— —	<b>やや多 やや多</b>	アブラナ科 野菜	アブラムシ類 コナガ	— やや遅	<b>やや多 並</b>	
	ジャガイモ	疫病	並	キク	アブラムシ類	—	<b>やや多</b>	
モモ	灰星病	<b>やや早</b>	<b>やや多</b>					
	黒星病	やや遅	やや少					
	せん孔細菌病	並	やや少					
	褐さび病	並	並					
	モモハモグリガ ウメシロカイガラムシ	— 並	やや少 並					

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年よりやや少であったことから、種籾の伝染源量は平年よりやや少ないと考えられる。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を特に助長する条件ではない。

#### (2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) 少  
縞葉枯病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は5頭で平年(133.7頭)より少なかった。

イ. 県予察圃場(休閑田)におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は9.5%で、平年(6.3%)よりやや高かった。

#### (3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) 少  
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は0頭で平年(47.8頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

#### (4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高いとされており、越冬後成虫の本田への飛込み時期は平年よりやや早いと考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

### (麦 類)

#### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月24日の巡回調査によると、発生圃場率は95.7%で平年(76.9%)よりやや高かったが、発生程度は軽微であった。

#### (2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月24日の巡回調査によると、発生圃場率は34.8%で平年(15.2%)よりやや高かった。

## 防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作として、コムギに転換する。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期                      並                      発生量                      並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

## 2. 果 樹

### (モモ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生時期                      やや早                      発生量                      やや多

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査（南部）では、花腐れの発生圃場率は42.8%で平年（11.6%）より多かった。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

#### (2) 黒星病

予報内容

発生時期                      やや遅                      発生量                      やや少

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月22日の巡回調査（越冬病斑調査）では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

#### (3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期                      並                      発生量                      やや少

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 前年の発生量はやや少なかったことから、伝染源の越冬量も平年より少ないと考えられる。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

#### (4) 褐さび病

予報内容

発生時期                      並                      発生量                      並

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

#### (5) モモハモグリガ（第1世代成虫）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査（南部）では、発生圃場率は0%で平成（5.0%）より低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は0頭で、平成（9.7頭）より少なかった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平成より高く、降水量は平成並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月19日と推定され、平成（4月20日）並であった。なお、予測式から防除適期（幼虫ふ化最盛日）は5月5日頃と予測される。

イ. 越冬雌成虫の生存率は90.0%で平成（88.7%）並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月3日であり、平成（4月11日）より早かった。

イ. 4月1～5半旬の誘殺数は28頭で平成（38.4頭）よりやや少なかった。

(8) カメモムシ類

予報内容

発生時期 やや早 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来予測数は、チャバネアオカメモムシは赤磐市が748.3頭（平成374.2頭）で平成より多く、津山市が175.2頭（平成264.2頭）で平成よりやや少ないと予想される。クサギカメモムシは赤磐市が38.2頭（平成13.6頭）、津山市が264.2頭（平成198.0頭）でともに平成よりやや多いと予測される。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平成より高く、降水量は平成並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウの生育はほぼ平成並で推移している。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平成より高く、降水量は平成並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウの生育はほぼ平成並で推移している。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。  
防除上の参考事項

ア. ブドウベと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組み合わせる。

イ. ベと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

### 3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

#### （1）灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月24、27日の巡回調査によると、発生圃場率はナスでは33.3%、トマトでは60.0%と平年（ナス：22.3%、トマト：44.3%）よりやや高かった。イチゴでは14.3%と平年（18.8%）よりやや低かった。キュウリでは発生を認めず平年（0%）並であった。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（イチゴ）

#### （1）うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月24、27日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（12.3%）より低かった。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（タマネギ）

#### （1）べと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月24、27日の巡回調査によると、発生圃場率は62.5%で平年（39.9%）よりやや高かった。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（ナス、キュウリ）

#### （1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月24、27日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年

よりやや少なかった。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は429頭で、平年（177.8頭）より多かった。

イ. 4月24、27日の巡回調査によると、発生圃場率はダイコンで25.0%（平年：4.5%）、ハクサイで66.7%（平年：35.8%）といずれも平年より高かったが、発生程度は軽微であった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は23頭で、平年（23.4頭）並であった。

イ. 4月24、27日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイでの発生圃場率は0%で平年（8.7%）より低かった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

4. 花き類

(キク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は429頭で、平年（177.8頭）より多かった。

イ. 4月27日の巡回調査によると、発生は平年並にみられるものの程度は軽微であった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。